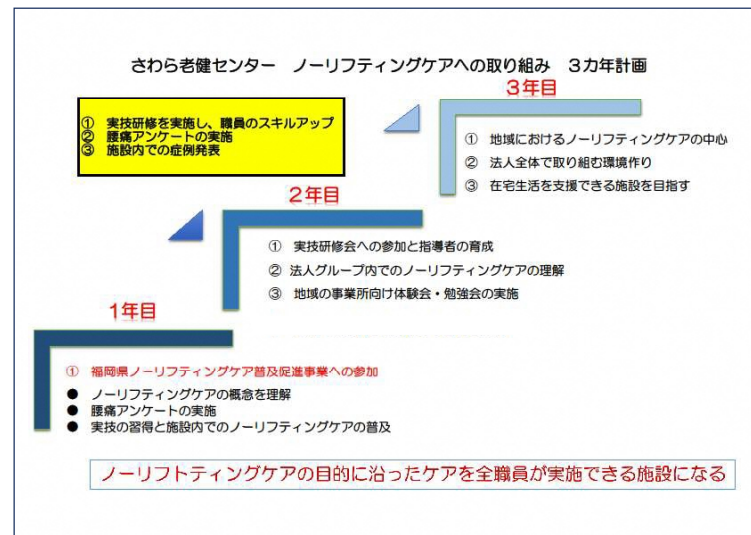


『ノーリフティングケア2年目の挑戦！』 ～ 法人内、地域への普及活動と施設での取り組み ～



社会医療法人 福西会
介護老人保健施設 さわら老健センター

ノーリフティングケア 3カ年計画



さわら老健センター1年目の振り返りと今年度の課題

良かった点

- ①業務の改善、福祉用具を利用することでの負担の軽減
- ②利用者の介助を検討時この福祉用具を利用しては？との意見が良く聞かれるようになった
- ③施設としてノーリフティングケアに職員全員で取り組むことが一つの目標となり団結力が芽生えた

課題

- ①介護職員の中に実技研修を受けた職員がいないこと(今年度2名参加し達成)
- ②職員間のノーリフティングケアに対する意識の差があること
- ③腰痛リスクの高い職員が減少していないこと

2年目の計画

- ①福岡県事業技術研修の受講
- ②法人内での勉強会の開催
- ③地域の事業者向け体験会・勉強会の実施

3年目の計画

①実技研修会への参加と指導者の育成



ノーリフティングケア
基本技術試験合格証明書

②法人内での勉強会の開催



ケアセンターひまわり苑
介護老人保健施設
一般棟 60床
認知症棟 40床



【ノーリフティングケア 4つのポイント】

- ① 環境整備
- ② 体重移動を行う
- ③ 支持基底面の確保
- ④ 体をねじらない



さわらふれあいの里
特別養護老人ホーム
入居 70床
短期入居 10床



5

②法人内での勉強会実施後

2施設の感想

- ・身体の使い方など基本的な事から意識づけをしないと便利な福祉用具を使用しても逆に身体を痛めることになると感じた。
- ・入浴やトイレでの排泄介助など腰痛の原因になる場面で福祉用具を導入できたらいい。
- ・福祉用具の導入までに時間はかかると思うが今回学んだノーリフティングケアの4つのポイントを意識して日頃の業務に取り組んでいきたいと思う。
- ・リフトなどには準備するのに時間がかかり2名で介助した方が早いと思っていたがリフトを使用し一人で介助することでもう一人が別の業務が行なえるなど業務の効率化も図れると思う。



ノーリフティングケアを意識し実施することで業務の効率化も図れ人材不足をカバーすることができる！

6

③地域の事業者向け体験会・勉強会の実施

さわら南よかとのネットとの連携

2012年設立
福岡市南西部にある7校区内にある医療、介護サービスなど70事業所が加盟。
認知症になっても住み慣れた地域で暮らせる環境を確立するため様々な取り組みを行っている。



今年度はコロナウイルスの影響により地域の事業者向け体験会、勉強会は中止としました。

7

施設内での課題 腰痛調査と対策について

	項目	2020年12月	2021年12月
腰痛あり	常に痛い、またはよく痛みがある	22.7%	21.4%
	時々痛い	31.8%	52.3%
	合計	54.5%	73.8%

アンケートから分かったこと

- ・浴室の環境改善が早急に必要
- ・リフトの導入検討
- ・職員から意見が聞かれるようになったことはノーリフティングケアの意識が良い方向へ変化している??

8

施設内での課題 職員教育について

実技講習の課題

- ① 職員退職により思うような指導の時間が取れない。
- ② リハ職員、基本技術講習受講者だけでは指導する余裕がない。
- ③ 新入職員、派遣で採用された方の研修体制が整っていない。
- ④ リハビリ職員、コアメンバーの負担が大きい。

9

施設内での課題 職員教育について

職員指導の改善策として

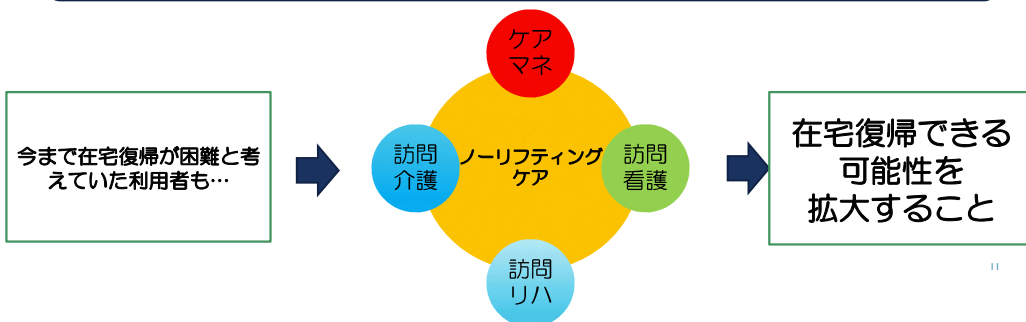
指導できる職員を育成し体制強化を図る

- ① コアメンバー全員が同じように技術指導ができるようにリハビリ職員、講習受講者から指導を受ける。
- ② リハビリ職員、コアメンバーだけでは指導に時間がかかるため新たに看介護主任、介護職員から4名サポートメンバーとして体制を作り技術指導を行う。
- ③ 新人職員、派遣職員は業務に入る前に1日研修の日を設ける。

10

ノーリフティングケアを推進する 介護老人保健施設の役割として・・・

介護老人保健施設の役割の一つ ⇒ 『在宅復帰』



11

ノーリフティングケア 3ヵ年計画 3年目の課題

2年目の残った課題

- ① 法人グループ内でのノーリフティングケアの理解
- ② 地域の事業所向け体験会・勉強会の実施

3年目の課題

- ① 地域におけるノーリフティングケアの中心となる
- ② 法人全体で取り組む環境作り
- ③ 在宅生活を支援できる施設を目指す

職員、利用者双方ともに安全、安楽な介助ができる！
施設職員、利用者双方ともに安全、安楽な介助ができる！
施設での介護の技術が大きく変わっていることを法人内、地域にってもらい、それが人材の確保に繋がるように取り組んでいきたい！
での介護の技術が大きく変わっていることを職員、利用者双方ともに安全、安楽な介助ができる！
施設での介護の技術が大きく変わっていることを法人内、地域にってもらい、それが人材の確保に繋がるように取り組んでいきたい！
法人内、地域にってもらい、それが人材の確保に繋がるように取り組んでいきたい！！

12